

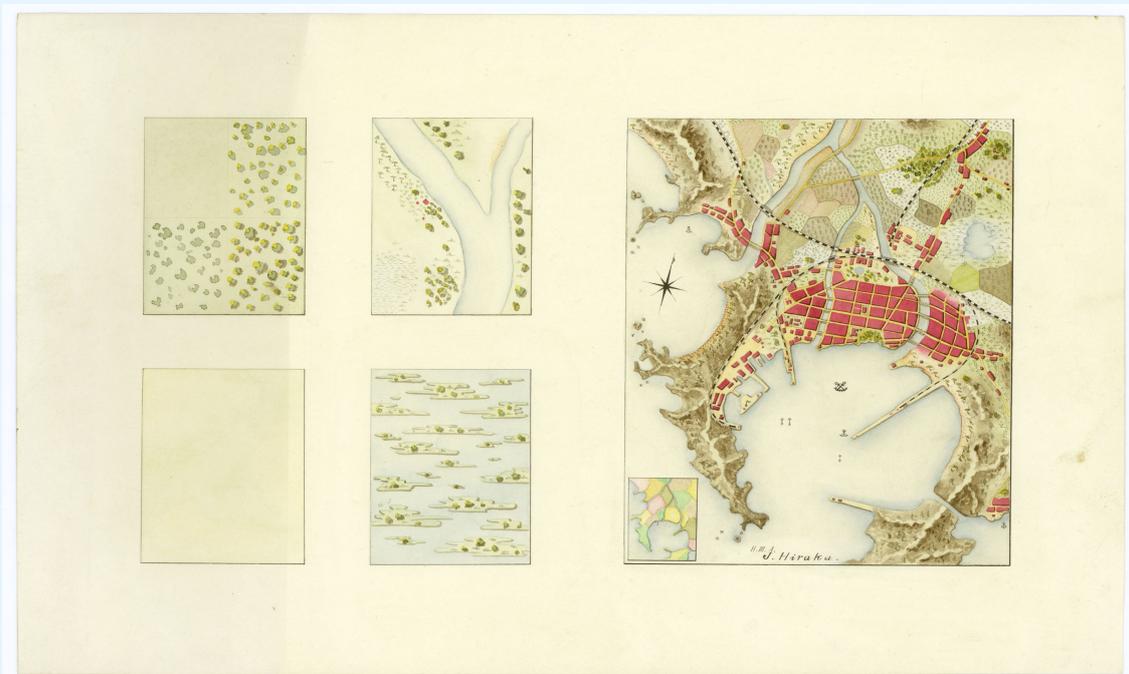
# 第3回(平成20年度第1回)駒場図書館企画展示

## 測量

### 展示解説

#### 第一高等学校と測量

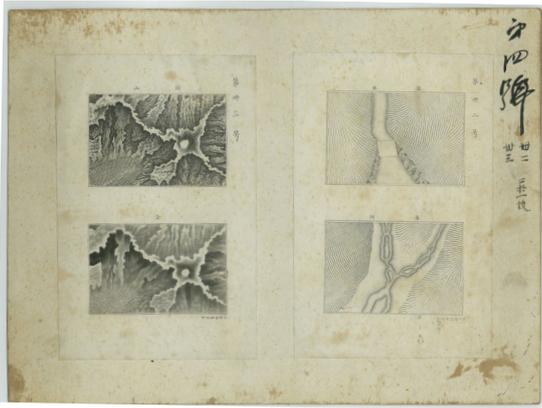
明治19年(1886)から学科目の廃止される大正8年(1919)まで第一高等中学校(明治27年6月の高等学校令によって第一高等学校と改称)では、工科(工学)・理科(理学部)・農科(農学部)志望の生徒に測量を教えた。授業時間は志望により異なり、工科生については明治32年までは6時間、明治33年以降は土木・機械・電気・採鉱冶金・造船・建築志望生のみ3時間、理科生については明治26年までは3時間、明治27年以降は数学・物理学・星学志望生のみ3時間、農科生については明治26年までは6時間、明治27年以降は農学・農芸化学・林学志望生のみ3時間であった。測量の教鞭をとったのは非常勤の教員で、初代の東京府技師原龍太が東京帝国大学工科大学土木工学科に転じて以後、代々、同学科の助教授が担当した。



平成20年4月

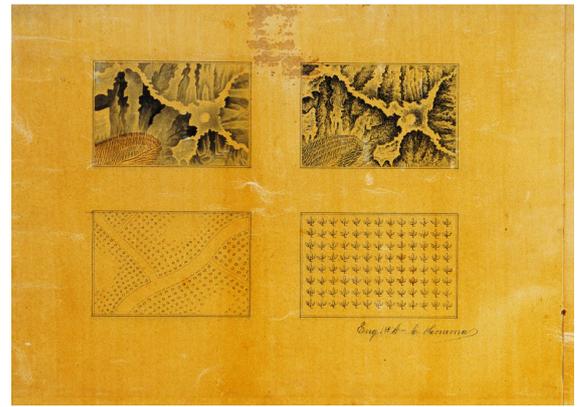


東京大学駒場図書館



**測繪図譜**

本書は内務省が明治11年に刊行した地図の図式で、第一高等中学校では本書を教科書として用いた。右肩に記された複本番号は、第一高等中学校が本書を定価の1割の料金を生徒に貸し付けていたことを物語っている。



**生徒による地図図式の作品**

本図は墨色地誌画の課題として第一高等中学校1年生の本間義次郎が『測繪図譜』を写したものである。後に本間は第一高等学校で物理を教えた。

**生徒教科書貸付簿 明治25年(1892)**

第一高等中学校では教科書を定価の1割の料金を取って、生徒に貸し付けていた。

『測量図譜』は内務省から刊行された地図の図式で、第一高等中学校以来、教科書として用いられたが、残念ながら1冊も現存していない。

拡大

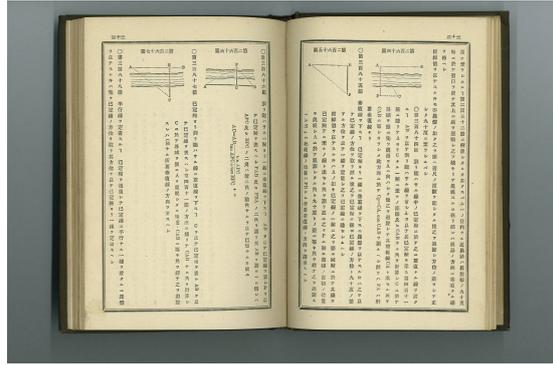
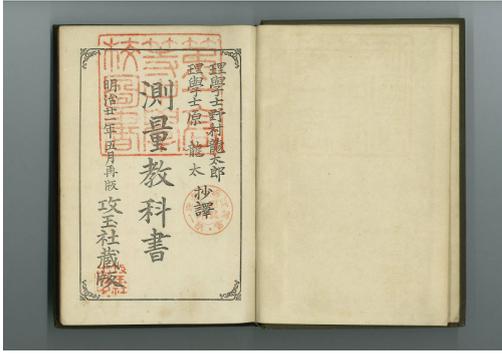
**教官別時間割綴 自明治26年9月至同27年6月**

第一高等中学校創立の明治19年から明治31年まで原龍太が測量を教えた。第一高等中学校では工科・理科・農科の1年生は測器調整法及使用法・実測製図・墨色地誌画を学び、工科・農科の2年生は高低測量・実地演習・着色地誌画を教わった。

**【表紙図解説】 生徒による地図図式の作品**

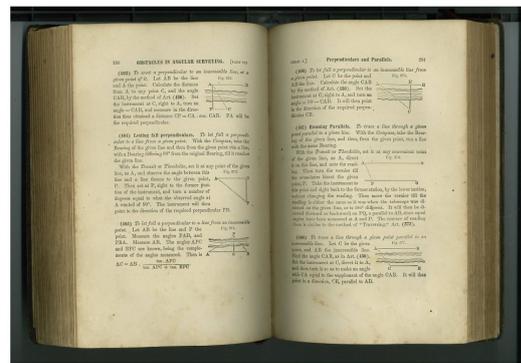
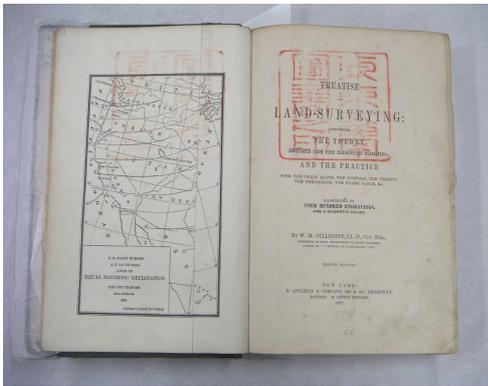
本図は第一高等学校3年生の平賀譲の手になる着色地誌画の課題で、『測量図譜』の写しと推定される。東京帝国大学工科大学(工学部)造船学科卒業後、海軍に入った平賀は、大艦巨砲主義時代の軍艦のデザイナーとして名をはせ、東京帝国大学教授、工学部長、総長を歴任、総長在職中の昭和18年に逝去した。(東京大学柏図書館所蔵、東京大学附属図書館『平賀譲デジタルアーカイブ』より転載)。

測量に使われた参考書



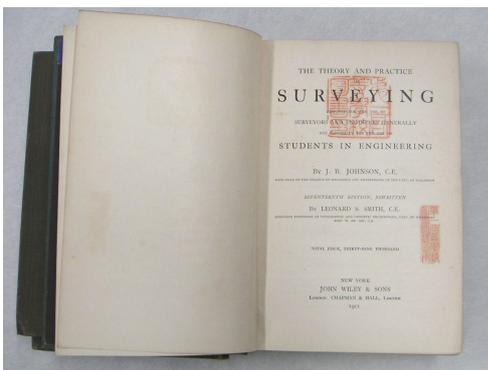
『測量教科書』 野村龍太郎・原龍太訳 明治19年(1886)刊

本書はW. M. Gillespie A Treatise on Land-Surveying.の抄訳。  
 明治22年から明治29年まで第一高等中学校・第一高等学校で測量を教えた原は東京府技師で、後に東京帝国大学工科大学教授、野村は東京府技師から鉄道局に転じ、鉄道院技監、同運輸局長、満鉄総裁を歴任。



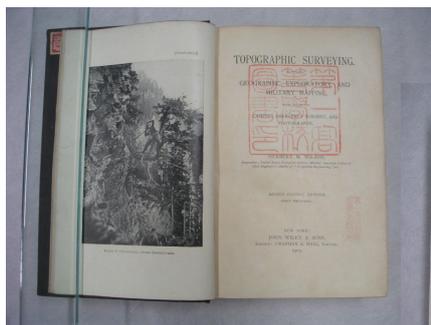
A Treatise on Land-Surveying W. M. Gillespie著 1877年刊

『測量教科書』の底本。大正8年(1919)に測量の学科目が廃止されるまで本書は長らく測量の参考書として用いられた。



The Theory and Practice of Surveying

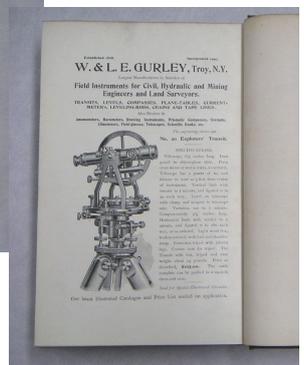
J. B. Johnson著 1911年刊(第4版)  
 明治35年(1902)の「測量科参考用書」は本書を「二部三年級」の授業で用いる参考書の一つとしている。



Topographic Surveying H. M. Wilson著 1905年刊(第2版)

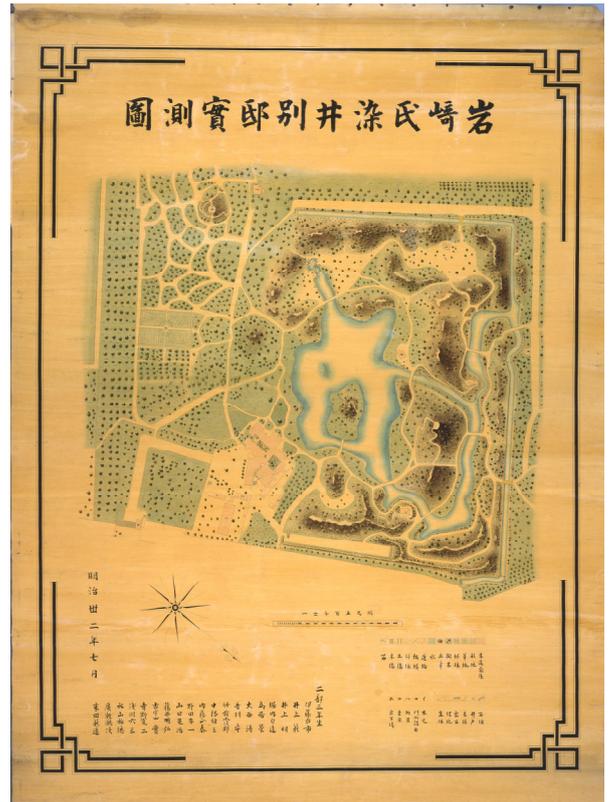
明治35年(1902)の「測量科参考用書」は本書を「二部三年級」の授業で用いる参考書の一つとしている。

最終ページにW. & L. E. Gurley社の広告



## 測量教科用絵図

第一高等中学校では測量の実地演習として生徒に測量器械を貸し与えて公園・学校・社寺などを測量させ、実測図を作成させた。明治28年には神宮司庁の委託を受けた有志学生が伊勢神宮・同別宮域を測量し、見事な成果を収めている。優秀な作品は、表装の上、掛図として教育の用に供された。第一高等中学校(23年)・高等師範学校(27年)・帝国博物館(同)・音楽学校(同)・東京工業学校(28年)・東京盲啞学校(同)・高等商業学校(同)・文部省(29年)・本妙寺(30年)・星岡公園(同)・工科大学(31年)・芝公園実測図(同)・岩崎氏染井別邸(32年)などが今に伝わる。



岩崎氏染井別邸



帝国博物館実測図



芝公園実測図

解説・協力: 安達裕之情報学環教授  
駒場博物館